

ゲートキーパー養成の方向性

① リスクに気付きつなぐ人材づくり

（対象者： 行政機関や各種相談機関の職員、医療保健福祉関係者など）

ハイリスク者の覚知、傾聴、初期対応、
専門機関への確実な紹介といった技能を身につけてもらう。

② 正しい情報をさりげなく伝える人材づくり

（対象者： 一般市民、①以外の対人サービス業従事者など）

正しい情報、役立つ情報を知り合いや地域に普及してもらう。

同様の情報をハイリスク者やその周囲の人に
さりげなく伝えてもらう。

ハイリスク者やその周囲の人の対処行動を援助してもらう。

ハイリスク者の覚知や傾聴、紹介の技能の習得は求めない。

実効ある普及啓発事業として強化する必要あり

『相談対応の手引き集』配布状況（平成20年11月～平成24年3月）18

	借金・経済	メンタルヘルス	自死遺族	身体健康	高齢者	事業主	未遂者
民生委員・児童委員 等	1569	1569	1569	559	579	58	0
介護事業所、包括支援センター 等	705	552	313	1464	1654	174	189
医療機関（精神科・一般医）	168	158	160	158	158	385	434
弁護士、司法書士 等	140	140	140	10	10	10	10
消費生活センター	70	0	0	0	0	0	0
事業所の労務担当者、労働局 等	13	68	13	7	7	644	10
自衛隊の労務担当者	5	5	5	5	5	5	0
市町職員、保健所の協議会委員 等	3554	4555	2934	1871	2041	1787	1339
警察官	45	45	45	15	15	15	15
一般県民、民間団体	1422	1530	1324	1166	1268	1168	1172
他県行政職員、他県民	474	568	444	372	372	257	389
合 計	8165	9190	6947	5627	6109	4506	3555

★ ゲートキーパー養成講座受講者数：8,369名

多重債務者等のメンタルヘルス無料相談事業

(平成20年7月～平成24年3月)

多重債務者等が相談に訪れる下記5機関に保健師を派遣し、メンタルヘルス上の問題を有する者の相談を受けるとともに、医療機関への受診が必要と思われる者に対し、精神科診療所での無料相談券を交付する事業。

◆ 委 託 先： 長崎県看護協会

◆ 派遣機関： 長崎県弁護士会、法テラス長崎、長崎県消費生活センター
法テラス佐世保、佐世保市消費生活センター

◆ 実 績： 平成20年度 — 相談38件（うち 無料相談券交付 8件）
平成21年度 — 相談38件（うち 無料相談券交付12件）
平成22年度 — 相談42件（うち 無料相談券交付 9件）
平成23年度 — 相談23件（うち 無料相談券交付 6件）
合計(3年9ヶ月間) — 相談141件（うち 無料相談券交付35件）

暮らしと健康の相談会 (平成21年9月～平成22年3月)

県司法書士会の提案に基づき、同会と精神保健福祉センターの共同で実施したハローワークでの合同相談会。

司法書士と精神保健福祉センタースタッフ（保健師、精神保健福祉士、臨床心理技術者等）が、来所者の中で希望する者を対象に、借金経済問題およびメンタルヘルスに関する専門相談を実施した事業。

◆ 実 績：

9月 9日（長崎市内） — 借金・経済 2名、その他4名、重複1名
9月 15日（佐世保市内） — その他1名、他1名
9月 2日（長崎市内） — 借金・経済 2名、重複4名、他1名
12月 9日（諫早市内） — 多重債務 1名、その他1名、重複2名
12月 16日（佐世保市内） — その他5名、他1名
3月 2日（佐世保市内） — 借金・経済1名、その他6名
3月 4日（長崎市内） — 借金・経済3名、その他2名、重複1名
3月 5日（諫早市内） — 借金・経済1名、その他2名、重複1名、他1名

多重債務者等の

21

暮らしとこころの相談事業（平成22年7月～平成24年3月）

「多重債務者等の 以外に無料相談事業」、「暮らしと健康の相談会」をモデルに、県下全域で借金経済問題およびメンタルヘルス上の問題に対する専門家による合同相談会を展開している事業。

8県立保健所が事務局となりそれぞれの管轄地域内のハローワーク、住民センター、保健所等において相談会を開催。

相談は、弁護士または司法書士が“暮らしの相談”を、臨床心理士または保健所スタッフが“こころの相談”を担当し、合同で対応する。

◆ 協力機関： 県弁護士会（協定）、県司法書士会（協定）、
県臨床心理士会（事業委託）

◆ 実績： 相談272件（うち無料相談券交付 16件）

暮らしの相談 128件 こころの健康相談 59件

重複相談 78件 その他 7件

（地域〔保健所〕別） 西彼ー暮らし 28 こ 16 重 13 他 1 県央ー暮らし 7 こ 3 重 13
県南ー暮らし 11 こ 7 重 14 他 1 県北ー暮らし 17 こ 6 重 8

離島部

五島ー暮らし 3 こ 2 重 3 上五島ー暮らし 12 こ 12 重 5 他 2
壱岐ー暮らし 7 こ 6 重 1 他 3 対馬ー暮らし 43 こ 7 重 21

スナックママさんゲートキーパー養成

22

《地域自殺対策緊急強化基金事業》

高年男性のストレス対処行動・実態調査（H21年度～23年度、長崎県県央保健所）

● スナック・飲食店アンケート調査
（平成21年度）

調査対象

・県央保健所に登録された大村市内
のスナック/居酒屋260件
（平成21年12月末現在）

調査期間

・平成22年8月～11月

調査方法

・郵送による自記式質問紙調査及び
電話による聞き取り調査

回答率

39.6%（103件）
スナック63件、居酒屋40件

結果

- ・中高年男性から相談を受けた経験がある
スナック73.3% 居酒屋64.1%
- ・相談内容は、仕事、病気、借金、家族、恋愛、介護
- ・対応方法は「話を聞く」「助言」「励ます」
が4割、「相談先を紹介する」のは1割

● スナックインタビュー調査
（平成22年度）

調査対象

・同意が得られた
“スナックのママ” 6名

調査期間

・平成22年8月～11月

調査方法

・訪問による
インタビュー調査

結果

- ・スナックのママは、お客からの多くの深刻な悩みに対応している
- ・そのようなお客の対応にストレスを感じている
- ・相談内容の秘密は厳守しながら、どこまで深刻な悩みに対応すべきか悩んでいる
- ・身体面において心配なお客に対しては医療機関につないでいるが、その他の問題に関して、困った時の後ろ盾が欲しいと思っていた

★スナック
ママさん
ゲートキーパー
養成ミニ講座
（平成23年度～）

受講終了者

H23年度：12名

H24年度：4名

※ 料飲業生活衛生
同業組合の支部
長の協力の元、
この問題に関心
の高いママさん
に個別に当たっ
て受講者を募っ
ている。

※）大村市（人口91,152人）

大学生ゲートキーパー養成

(平成24年度、長崎県長崎こども・女性・障害者支援センター)

- 実施施設：県内3大学
- 実施形態：
 - A大学(国公立) 講義として
 - B大学(私立) 課外の講座
 - C大学(国公立) 講演会の一部
- 受講者総数：513人

特徴：

ゲートキーパーの役割を明確化

- ① 正しい情報を知り、伝える
- ② 相談窓口を勧める
(場合によっては相談の手助けをする)

※) 加圧リリガのような専門的な技術を身につけるための講座ではないことを強調



大学生ゲートキーパー養成講座受講者アンケート結果 ²⁴

【ゲートキーパーについて】 ● ゲートキーパーの役割、大切さがわかった：12名

「今日聞いた話の内容を自分の周りに置き換えて、ゲートキーパーの輪に加わっていきたいと思った。」
 「誰でもゲートキーパーになれるんだと思った。」
 「ゲートキーパーと聞くと、難しそうなイメージだけど、『正しい知識を持つ』、『少し声をかけてみる』ということから始まって誰でも出来ることなので、興味が湧いた。」
 「初めてゲートキーパーという言葉聞いた。自殺者、うつ病患者、困難を抱える人は増えるので、支える人も多く必要になると思う。このような講習会に参加できてよかった。」

【正しい知識の理解と対応について】

● うつ病、依存症、借金問題について 対応等の学びができた：16名

「うつに対する考え方、説明の仕方が他者に話しやすい言葉で書かれており理解しやすく、使いやすい、伝えやすい。うつに対する社会の偏見が少しでも減れば良いと思う。」
 「うつ病や依存症の本当の原因を理解出来た。周囲の友人や親戚等からの相談時や、自分に症状があれば、今回学んだことを活かしたい。」
 「わかりやすい話だった。うつ病はスマートフォンのように、多くの機能を使って、バッテリーが切れた状態という表現が面白かった。すばやく充電できる方法を各人が知っていたり、ゆっくり休める場所があったりするといいなと思った。」
 「うつ病について勘違いしていたと実感した。」
 「依存症が疑われる人物がいたのでよい機会だった。今度あった時話してみようと思う。」

【自殺について】

● 自殺の現状がわかった：3名 ● 自殺に対する捉え方が変わった：8名 ● 自殺はやめようと思った：2名

「自殺を恥ではないと考えたことがないので、新鮮だった。自殺に対し理解を深められ良かった。」
 「『命を大切にしない』『精神力が弱い』などと言うのではなく、その人に寄り添って声をかけてあげることが大切なんだとわかった。」
 「自殺は身近にあるもので、今後の生活の仕方によっては自分にも起こりうることで気を付けたいし、そのような人がいたら支えになれるようにしたい。借金も気をつけたい。」
 「自殺に対する認識が変わった。」
 「自殺に対する印象が変わった。」
 「考え方が変わったので良かった。」